

知ろう 学ぼう 私たちの文化（室町文化体験学習）

福山市立駅家西小学校

1 取組の概要

21世紀の地球時代を生き「輝きのある未来」にするための教育として、全学年でESD（持続発展教育）を推進している。本校では、4年前から、全学年がESD関連カレンダー（各教科等の指導内容をESDの視点で関連付けた年間指導計画）を作成しており、現在はそのカレンダーを基に各学年が3つの領域（環境教育・多文化国際理解教育・人権平和教育）で、系統的に学ぶことができるようカリキュラムを工夫して取組を進めている。

このことにより、児童に持続可能で希望のある未来社会の担い手となるための資質・能力（行動力と実践力）を育むことをねらいとしている。

2 本実践事例について

（1）本事例実施の背景・これまでの取組

世界には多種多様な文化があり、いずれの文化もその土地の気候、風土、習慣、言語、宗教などに適した形で発展してきている。それぞれ固有の文化の価値を認めるとともに、地域の歴史や文化を学び、今の生活に根付いている室町文化を体験することで、伝統文化継承の意義や日本文化の価値を理解し、それが多文化理解・国際理解の基盤を形作ると考える。

室町文化体験学習では、例年「茶の湯」「琴」「水墨画」「狂言」を学習してきたが、ここ2年間は「能」「茶の湯」「琴」の学習をしてきている。6年生になるまでに、子ども達は、4・5年生でお茶の接待や音楽の授業で琴の学習をしてきている。従って6年生になると「室町文化を体験できる」という期待をもって、この学習をスタートする。このように、室町文化体験学習が下の学年や次の学年の学び、日々の生活につながり広がるよう、系統的で継続した学びを形作るよう努めてきている。

（2）指導のポイント

- ☆ 室町文化の体験・国語科・社会科・道徳の学習の関連を図り、長い歴史の中で、今の自分達の学習や生活のもとになっている文化が作り出され、受け継がれているすばらしさに気付かせるとともに、一人一人がその文化の伝承者であることを自覚させる。
（付けさせたい力1）
- ☆ それぞれの文化の特徴や良さ・違いなどについて、調べ活動・文化体験交流・発表会・卒論作成を通して、自分の考えを持ち表現する力を付けさせる。友だちの発表から自分の生き方を振り返る場とする。（付けさせたい力1，2）
- ☆ 相手意識・目的意識を明確に持ち、指導を受けるボランティアの方や発表の場で接する人たちへのよりよい対応力やその場に応じた作法、コミュニケーションの取り方を身に付けさせる。（付けさせたい力2）
- ☆ 体験した室町文化の中で身に付けたいと考えたものを、日常生活の中で積極的に活かすための具体的な工夫を考えさせる。（付けさせたい力3）

3 学習指導案

◎本時の授業…これまで継続してきた室町文化体験を振り返り、室町文化がなぜ今まで継承されてきたのかを考えることで、日本の伝統的文化・日本独自の価値観・風俗習慣などの認識を深め、共感を持ち、それらを伝承していこうとする態度や文化をより一層豊かにする実践力を育てる。

(1) 本時のねらい

室町文化体験から、そのよさは何であるかを考え、伝えていけるもの、生かせるものは何かを考える。

(2) 対象学年 第6学年

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握	1. 本時の学習を把握する。 目標である室町文化体験発表会のイメージを持たせる。 2. 課題設定をする。	・さらに、イメージの明確化を図るための話し合いが必要なことに気付かせ、課題設定をする。	
自力解決	3. 室町文化発表会で何を伝えるかを明らかにする。 ・作法を守ってお茶を点てたい。わけは、人をまねいたときの「おもてなしの心」を伝えたいから。 ・みんなと心を合わせて琴をひきたい。わけは、日本の文化のよさを味わってもらいたいから。 ・姿勢良く謡をうたいたい。わけは、見ている人も気持ちがいやんとするから。 4. 自分の考えを隣の人に伝える。	・自分の考えに理由をつけて書かせる。 ・座席表で見取り、集団解決の見通しを立てる。 ・ペアトークで相手に伝えさせる。	○自分が体験した活動を振り返り、ノートに考えが書けている。
集団解決	5. 発表会で何を伝えるか話し合う。 ・600年以上にわたって伝わってきた文化を自分達も守り、ぜひ伝えていきたい。 ・日本文化独自の相手を思いやる心は、これからもとても大切に伝えるべきことだ。私たちも思いやりの心を持ち発表会をしたい。 ・私達もりんとした姿勢や気持ちを大切に発表会をしたい。	・伝統文化のよさや伝えてきた人の思いを入れながら、伝えたいことを話し合わせる。 ・自分たちが体験したことを伝える意味・意義を考えさせる。	○自分の考えを、根拠を持って話すことができる。
まとめ	6. 発表会で伝えたいことを一言でまとめる。 ・謡の声に気持ちを込めるため、しっかり声を出す。 ・伝統文化のよさを伝える。	・めあてを達成させるために自分ができることを考えさせる。	

4 児童の反応（授業後の感想等）



私は、舞うことに大切なのは「姿勢を保つこととみんなの心をそろえる」ことだと思いました。これからどんどん学んでいきたいです。



茶の湯の学習を通して、一番大切にしないといけないことが「誠意をもってもてなす心」であることが分かりました。これは、お茶をしている時だけでなく、普段からも使えることなので、相手を思いやり、誠意をもって行動することが大切だと思いました。